

20021

## シングルプレーン血管撮影装置故障時におけるリスクマネジメント

【目的】病院にシングルプレーン血管撮影装置 1 台しかない環境で PCI を行う場合には、術中に X 線透視が行えなくなるとその手技が進められず、場合によっては非常に危険な状況となる。最近の血管撮影装置には X 線管球焦点切れや種々のシステムトラブルにおいても X 線透視を継続するようなバックアップ回路及び透視機能を優先する縮退運転機能があり、多くの場合はこれによって治療を継続出来るが、最悪の場合には透視不能となることも予想される。そこで、血管撮影装置故障により透視が出来なくなったことを想定して、状況に応じた対応方法を検討する。

(使用装置)

血管撮影装置：Inflix Celeve-i 東芝メディカルシステムズ (シングルプレーン)

移動型透視 C アーム：SIREMOBLE Compact L シーメンス・ジャパン

無線式 FPD システム：CARNEO flex 富士フィルムメディカル 等

【方法】患者の状態や故障のタイミングをもとに、対応方法の種類、代替え装置の配置とその使用方法、及び対応に必要な時間等を検討する。

【結果】患者の状態と故障のタイミングにより対応方法を分類した。患者転送や治療延期が可能な場合の対応方法、またそれらが難しい前拡張直後の装置故障については移動型透視 C アームを使用してステント留置を行うことも想定し、血管撮影装置故障時のリスクを回避・低減する環境を整えることが出来た。

評価1	評価2	評価3	採否
発表日時 月 日 (第 日)	セッション	会場	時 分～ 時 分

受付番号

演題番号